

TSMI からみた三重県国体選手の心理的特性 (第一報)

米川 直樹*・鶴原 清志*・藤田 匡肖*
吉沢 洋二**

On the Psychological Trait of Mie's Representative players in National Sport Festival from the view point of the TSMI

Naoki YONEKAWA, Kiyoshi TSURUHARA, Masanori FUJITA
and Yoji YOSHIZAWA

本研究は、三重県国体選手を対象にして、TSMI からみられる選手の心理的特性の現状について把握することを目的とした。調査対象者は、平成2年度の第45回国民体育大会夏季および秋季大会に出場した三重県の代表選手29競技団体の選手195名であった。調査内容は、TSMI (Taikyo Sport Motivation Inventory: 体協スポーツ動機検査) を使用した。この TSMI は、松田他によって作成されたスポーツ選手の競技意欲を測るもので、応答の正確性を含む18の尺度 (146項目) からなっている。

分析の結果、三重県国体選手の競技意欲は、全体的には平均的であった。また、女子よりも男子の方が高い競技意欲を示したが、これは一般的な傾向とある程度一致するものであった。そして、競技経験による差が認められ競技意欲のトレーナビリティーが示唆された。これらのことは、三重県国体選手の競技意欲がさらに高められる可能性を示すものであり、そのためのトレーニングの導入が必要であろう。

緒 言

三重県では、スポーツ振興を図るために積極的な努力をしている。特に競技力向上については、平成2年4月に三重県競技力向上対策本部が設置され、“たくましく強い三重”をスローガンにその具体的な施策を展開している。この施策立案の根底には、国民体育大会をはじめ全国大会における競技成績の停滞傾向があるものと思われる。

競技力向上には、概して選手の練習量を増やすこと、合宿の回数を増やすこと、あるいは遠征を多くすることなど、量的な側面が重視される傾向があると思われる。しかし、量的な側面の重視は、選手のバーンアウト症候群³⁾、オーバートレーニング症候群⁹⁾などの問題もあり、一考を要する時期にきていると思われる。他方、競技力向上は、伝統的・経験主義的なトレーニングだけでなく、「スポーツ科学」を導入した量的、質的側面から

の科学的なトレーニングの必要性が指摘されている。

一方、競技成績は、身体資源、運動技術、および心理的側面が大きく関係していると言われていいる。確かに試合に勝つためには、強靱な体力や高度な技術を有している事が必要である。しかしながら、選手に強靱な体力や高度な技術が備わっていても緊張や不安などの選手自身の心理的な問題で日頃の成果が発揮されず負けてしまうこともよくある。このように、競技スポーツにおける勝敗の決定要因として、体力や技術、作戦や戦術などといった要因と共に、選手の心理的要因も深く関わっているものと思われる。

目 的

スポーツ選手の心理的特性について検討していく場合、スポーツの競技場面に特有な状況を考慮した方法で検討していくのが適当であると思われる

* 三重大学教育学部

** 名古屋経済大学

る。また、競技スポーツにおいて勝敗を決すると思われる重要な要因として、目標に対して自己の能力を発揮して目標を成し遂げたいという動機である達成動機が関係しているとも言われている。つまり、自分で立てた目標や限界に積極的に挑戦したり、技術の向上を目指して積極的かつ持続的に努力したり、あるいは困難な場面に遭遇したときくじけずにそれを克服しようとしたりすることは、競技場面での試合成績と密接に関連してくるものであると思われる。本研究で使用するTSMIは、上記のような点を考慮して作成されたスポーツ選手の競技意欲を測るものである^{5),6),7)}。

そこで本研究は、三重県国体選手を対象にして、TSMI からみられる選手の心理的特性の現状について把握することを目的とした。

方 法

1. 調査対象者

調査対象者は、平成2年度の第45回国民体育大会（以下、国体という）夏季および秋季大会に出場した三重県の代表選手である。夏季大会は、水泳など5つの競技団体の選手63名、秋季大会は、陸上競技など24競技団体の選手222名を対象にした。

2. 調査内容

TSMI (Taikyo Sport Motivation Inventory: 体協スポーツ動機検査) を使用した。このTSMIは、松田他^{5),6),7)}によって作成されたスポーツ選手の競技意欲を測るもので、応答の正確性を含む18の尺度（146項目）からなっている。

3. 調査時期及び調査方法

1990年9月に郵送法により、国体に出発する直前に回答を依頼した。夏季大会の回収率は、77.8%であった（5競技団体49名）。また、秋季大会の回収率は69.4%であった（24競技団体154名）。なお、有効回答率は夏季、秋季大会あわせて96.1%であった（29競技団体195名）。

結果及び考察

三重県国体選手の全体的な傾向を見るために、各尺度の平均、標準偏差を示したのが表1であり、それをスタナイン得点としてプロフィールにしたのが図1である。

表1および図1から三重県の国体選手の競技意

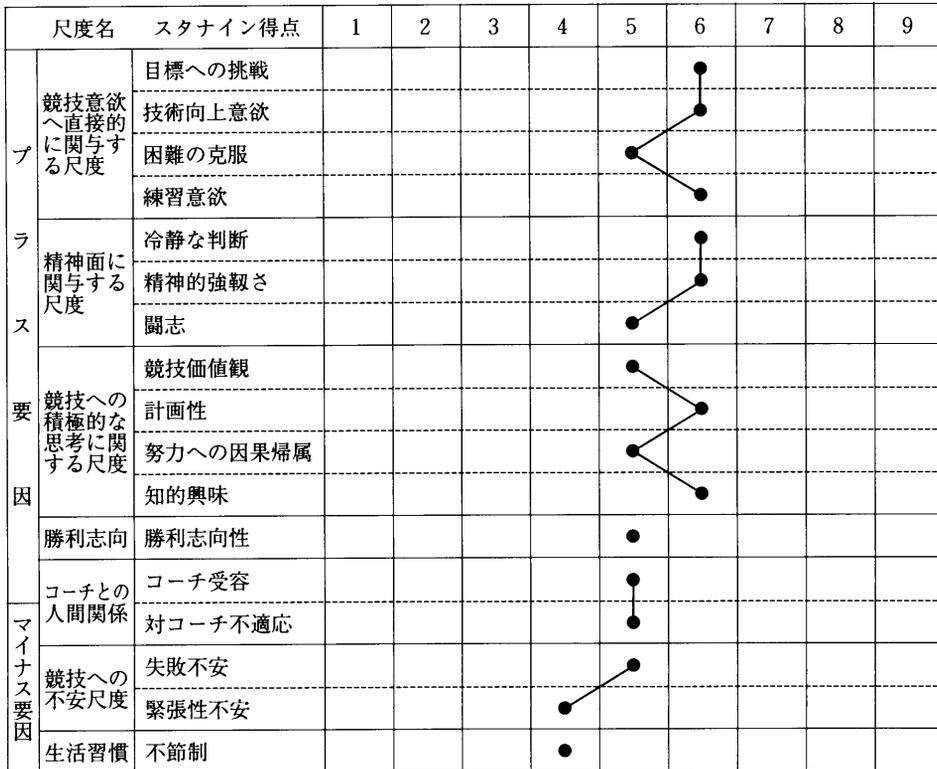
表1 全体のTSMIの得点

尺度名		M. SD	
		M	SD
プ	競技意欲へ直接的に 関与する尺度	目標への挑戦	23.51 4.21
		技術向上意欲	24.98 4.00
		困難の克服	24.16 4.18
		練習意欲	19.95 4.43
ラ	精神面に 関与する尺度	冷静な判断	20.76 4.04
		精神的強靱さ	21.72 3.68
		闘志	26.47 4.10
要	競技への 積極的な 思考に 関する尺度	競技価値観	23.02 4.45
		計画性	22.01 3.82
		努力への因果帰属	24.96 3.50
		知的興味	25.15 4.40
因	勝利志向	勝利志向性	21.69 4.41
		コーチとの 人間関係	21.64 4.28
マイ ナス 要 因	競技への 不安尺度	対コーチ不適応	17.39 4.42
		失敗不安	19.20 5.16
		緊張性不安	17.63 4.29
	生活習慣	不節制	17.66 3.56

欲において特にきわだった特徴は見られず、全体的には平均的であったことが示されている。特に、図1におけるスタナイン得点では、すべての尺度において4～6の範囲におさまっていることから示唆される。このことはTSMIを標準化した際の基本的な標本が国体選手であったことを考えても、三重県国体選手の競技意欲が平均的であったことを裏づけている。ただし、全体的には平均的であったが、図1を見るとプラス要因においては全ての尺度において5以上であったこととマイナス要因においてはすべての尺度で5以下であったことは、平均よりやや高い競技意欲を示す傾向があったと考えられる。

ところで、TSMIは過去の研究^{2),7),10),11)}から性差、競技水準差などが示されているため、本研究でもこれらの点から比較することとした。比較する観点として、性別、経験年数、過去の出場大会経験を取り上げた。経験年数については1～3年（Carrier Group 1以下CG1）、4～8年（CG2）、9年以上（CG3）の3グループに振り分

図1 全体の TSMI の平均プロフィール



け、過去の出場大会経験は国際大会 (International Group 以下 IG)、全国大会 (National Group 以下 NG)、それ以下 (Other Group 以下 OG) の3グループに振り分けた。

そこで、性別と経験年数の2要因分散分析、性別と出場大会経験の2要因分散分析を実施した。本来ならば性別、出場大会経験、経験年数の3要因分散分析を実施すべきであるが、この場合、細胞内の人数に極端な偏りが見られたために、あえて前述のような分析方法を実施した。

表2は性別、経験年数別に平均・標準偏差を示したものであり、それをスタナイン得点としてプロフィールにしたのが図2、図3である。また分散分析の結果を示したのが表3である。また、性別、出場大会経験年数の平均・標準偏差を示したのが表4で、それをプロフィール化したのが図4、図5である。そして、その分散分析の結果を示したのが表5である。

最初に、プロフィールから全体の傾向を見ていくことにする。プロフィール全体からは、男子が女子に比べて全体的にプラス要因では高く、マイ

ナス要因では低い傾向が示されている。また、図2・図3から、男女共に経験年数の多い方が全体的にプラス要因では高く、マイナス要因では低い傾向を示している。このことは経験年数の多い方が競技意欲が高いことを示唆している。さらに、図4・図5から、男子については経験年数と同様に出場レベルの高い方が競技意欲が高い傾向を示しているが、女子については、全国大会レベルの群が最も高い傾向を示している。

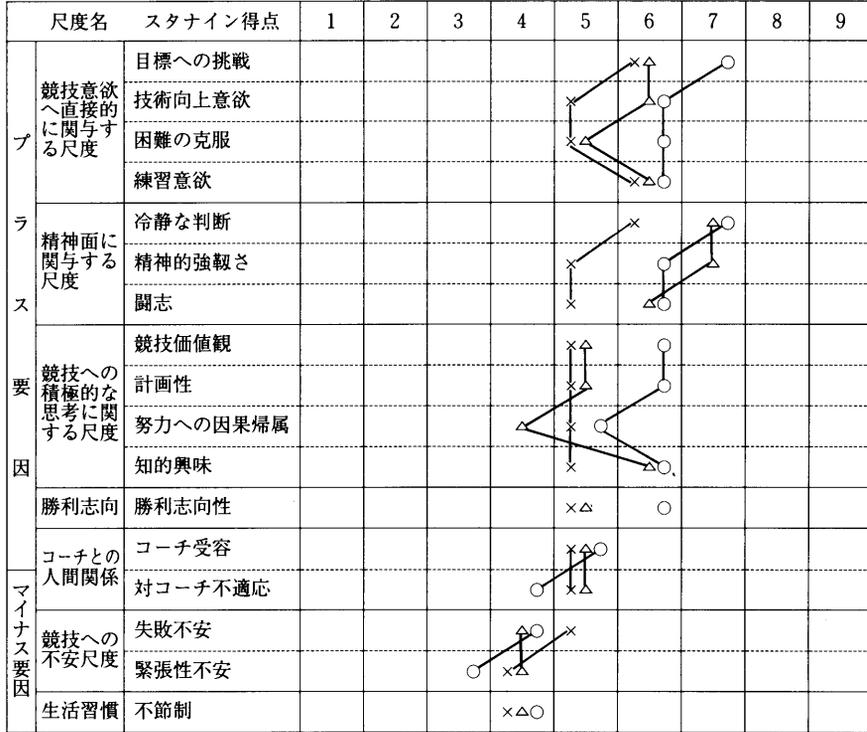
1. 性差

性差については、「目標への挑戦」「技術向上意欲」「練習意欲」「冷静な判断」「精神的強靱さ」「闘志」「競技価値観」「計画性」「知的興味」「勝利志向性」「コーチ受容」「失敗不安」「緊張性不安」の13尺度において有意差が認められた。このうち「コーチ受容」の下位尺度のみ女子が優れた競技意欲を示し、残りの12尺度すべてにおいて男子が優れた競技意欲を示した。全日本クラスの選手を比較した遠藤 (バレーボール)¹⁾ や堀本他 (バスケットボール)²⁾ の研究においても、男子が優れた競技意欲を示しているが、いくつかの尺度

表2 性別・経験年数別の TSMI の得点

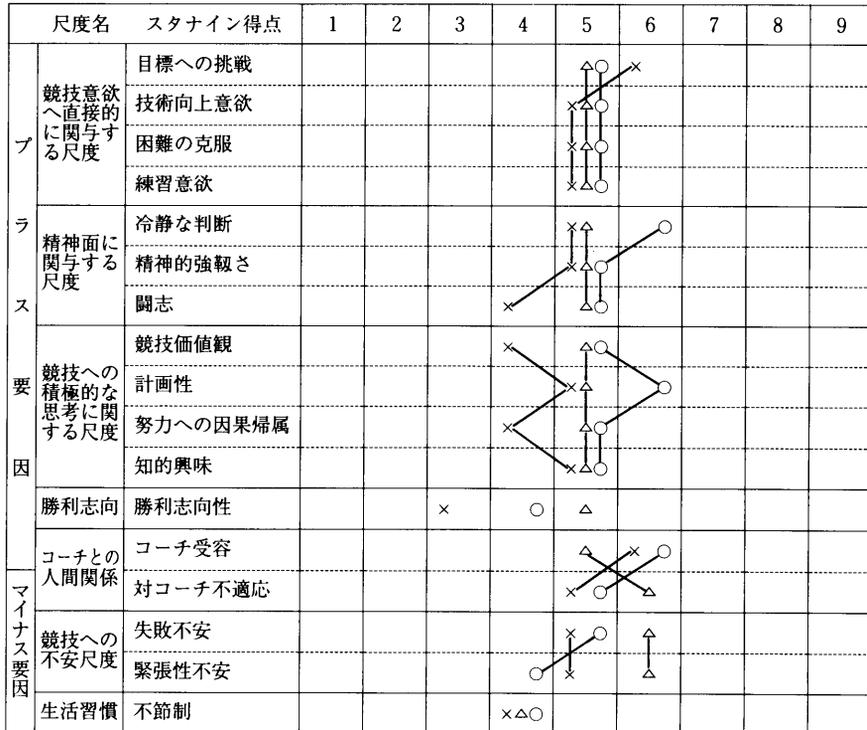
尺度名			性別		男子						女子					
			経験年数 (N)		CG1 (35)		CG2 (47)		CG3 (55)		CG1 (11)		CG2 (22)		CG3 (21)	
			M. SD		M	SD	M	SD								
プ	競技意欲へ直接的に 関与する尺度	目標への挑戦	23.20	4.40	23.45	4.64	24.84	3.83	22.55	4.59	22.32	3.59	22.33	3.55		
		技術向上意欲	24.29	4.28	25.26	4.50	26.22	3.22	24.00	4.54	24.14	3.56	23.76	3.70		
		困難の克服	23.97	4.57	23.89	4.73	25.42	3.30	24.09	4.06	22.73	3.78	23.38	4.21		
		練習意欲	19.86	4.99	19.83	4.39	21.20	4.11	18.82	5.29	18.73	3.94	18.95	3.90		
ラ	精神面に 関与する尺度	冷静な判断	19.86	3.99	21.74	4.21	21.82	3.86	18.45	3.39	19.14	3.41	20.00	4.01		
		精神的強靱さ	21.00	3.67	22.91	3.49	22.45	3.37	20.27	3.80	19.73	3.48	21.14	3.90		
		闘志	26.06	4.65	27.36	4.69	27.80	2.74	23.55	1.63	24.82	4.02	24.95	3.76		
要	競技への積極 的な思考に 関する尺度	競技価値観	22.14	4.73	23.13	4.64	24.84	3.49	20.27	4.24	21.59	4.19	22.71	4.90		
		計画性	21.60	3.33	22.11	4.02	23.47	3.38	20.27	4.38	20.23	4.10	21.29	3.57		
		努力への因果帰属	25.06	3.66	24.40	3.64	25.47	3.35	24.00	3.90	24.77	3.66	25.48	2.82		
		知的興味	24.31	4.86	26.34	4.66	26.27	4.04	23.00	4.54	23.32	3.50	24.05	3.22		
因	勝利志向	勝利志向性	22.23	4.60	21.66	4.80	22.93	3.56	17.45	3.47	21.73	4.10	19.57	4.34		
マイ ナス 要 因	コーチとの 人間関係	コーチ受容	21.89	4.18	21.57	5.25	20.65	3.72	22.91	5.99	22.32	3.47	23.00	3.05		
		対コーチ不適応	18.43	5.10	17.43	4.31	16.13	3.98	17.91	5.01	18.50	4.34	17.10	4.25		
	競技への不安 尺度	失敗不安	19.49	5.82	18.19	4.94	17.82	4.87	20.91	4.57	23.36	3.80	19.52	4.48		
		緊張性不安	18.46	4.83	16.91	3.99	16.33	3.77	18.55	4.84	20.50	4.74	17.81	2.66		
	生活習慣	不節制	18.43	3.67	17.60	3.49	17.75	3.62	18.18	3.87	16.59	2.50	17.29	4.14		

図2 男子の経験年数別 TSMI の平均プロフィール



× CG1 △ CG2 ○ CG3

図3 女子の経験年数別 TSMI の平均プロフィール



× CG1 △ CG2 ○ CG3

表3 分散分析の結果(性×経験年数)

尺度名		要因		性		経験年数		交互作用	
		F	s. l. 多重比較	F	s. l. 多重比較	F	s. l. 多重比較	F	s. l. 多重比較
プ ラ ス	競技意欲 へ直接的 に関与す る尺度	目標への挑戦	5.51	M [*] >F	1.52	…	0.67	…	
		技術向上意欲	5.35	M [*] >F	1.76	…	0.92	…	
		困難の克服	3.43	…	1.83	…	0.74	…	
		練習意欲	4.76	M [*] >F	1.27	…	0.33	…	
要 因	精神面 に関与す る尺度	冷静な判断	10.39	M ^{**} >F	3.47	CG3 [*] >CG1	0.29	…	
		精神的強靱さ	11.19	M ^{**} >F	2.29	…	1.65	…	
		闘志	17.76	M ^{**} >F	2.67	…	0.03	…	
マ イ ナ ス 要 因	競技への 積極的な 思考に関 する尺度	競技価値観	7.02	M ^{**} >F	5.65	CG3 ^{**} >CG1.2	0.07	…	
		計画性	9.95	M ^{**} >F	3.56	CG3 [*] >CG1.2	0.15	…	
		努力への因果帰属	0.02	…	1.40	…	0.54	…	
		知的興味	11.62	M ^{**} >F	2.68	…	0.44	…	
要 因	勝利志向	勝利志向性	11.70	M ^{**} >F	0.83	…	4.24	FCG2 [*] >FCG1	
		コーチとの 人間関係	コーチ受容	4.32	F [*] >M	0.62	…	0.58	…
マ イ ナ ス 要 因	競技への 不安尺度	対コーチ不適応	0.93	…	3.18	CG1 [*] >CG3	0.40	…	
		失敗不安	14.28	F ^{**} >M	2.20	…	2.42	…	
		緊張性不安	9.05	F ^{**} >M	3.17	CG1 [*] >CG3	2.13	…	
生活習慣	不節制	1.19	…	1.20	…	0.15	…		

* p.<.05 ** p.<.01

においては女子の方が優れた競技意欲を示したことを報告している。それに対して、本研究においては、「コーチ受容」の下位尺度のみ女子が高い得点を示している。従って、三重県の国体選手においては、全体的に男子の方が高い競技意欲を持っていること、女子の方がコーチを信頼し、よく指示にしたがうことを示している。このことは、女子選手はコーチに依存する傾向があると考えられることのできるため、女子選手を指導する場合にコーチが重要な役割を果たすと思われる。

2. 経験年数

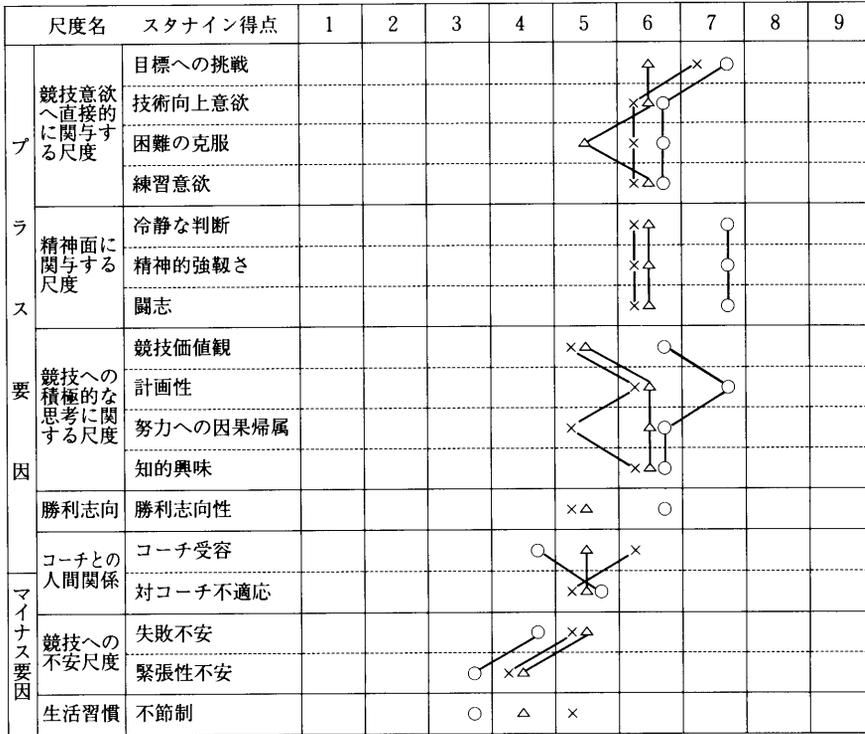
経験年数による差を検討してみる。表3から「冷静な判断」ではCG3がCG1よりも有意に得点が高く、以下「競技価値観」ではCG3がCG1・CG2より、「計画性」でもCG3がCG1・CG2より、そして「コーチ不適応」ではCG1がCG3より、「緊張性不安」でもCG1がCG3よりそれぞれ高い得点を示している。また交互作用では「勝利志向性」のみが有意であり、女子の

CG2がCG1よりも高い得点を示している。これらのことは、すべて競技経験の多い方がより優れた競技意欲を持っていることを示している。従って、競技経験を重ねることによって技術だけでなく、競技意欲についても高くなると考えられ、競技意欲のトレーナビリティを示唆している。

3. 出場大会レベル

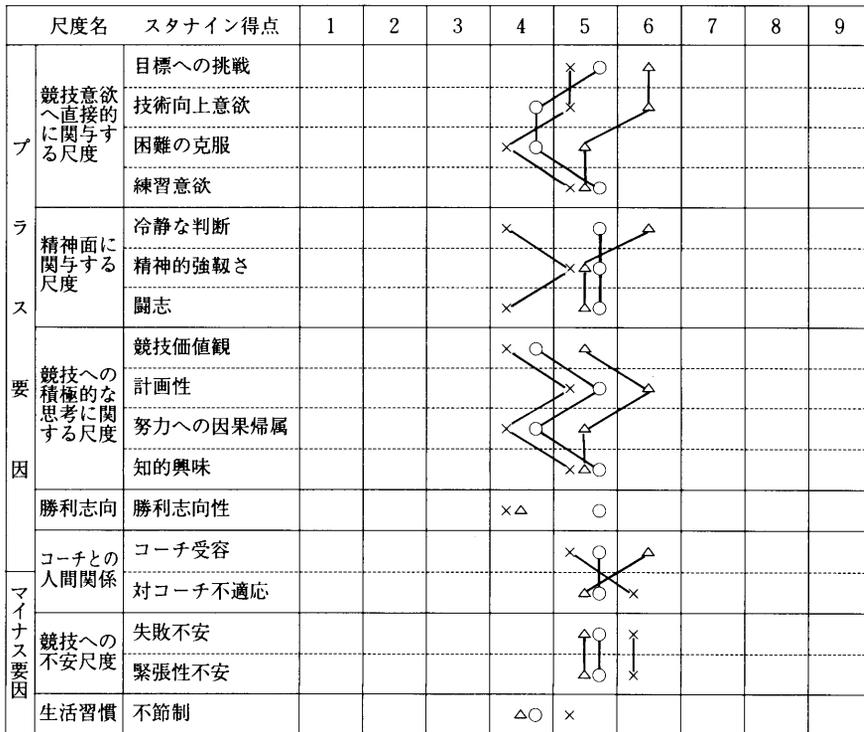
出場大会レベルについての有意差を示した表5を見てみると、「不節制」の下位尺度においてのみ有意差が認められ、OGがIGよりも高い得点を示した。この尺度はマイナス要因に含まれていることから、IGの方が高い競技意欲を示したと考えられる。しかし、過去の研究^(2),7),10),11)においては、競技レベルにおいて多くの下位尺度において有意差が認められているが、本研究においては出場大会レベルで有意差が認められたのは1つの下位尺度だけであった。この差は、おそらく過去の研究^(2),7),10),11)では現役の日本代表選手や日本リーグの選手を比較しているのに対し、本研究

図4 男子の出場大会経験別 TSMI の平均プロフィール



× OG △ NG ○ IG

図5 女子の出場大会経験別 TSMI の平均プロフィール



× OG △ NG ○ IG

表4 性別・出場大会経験別の TSMI の得点

尺度名			性別		男子						女子					
			出場大会経験 (N)		OG (9)		NG (102)		IG (28)		OG (11)		NG (34)		IG (11)	
			M.	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
プ ラ ス 要 因	競技意欲へ直接的に 関与する尺度	目標への挑戦	24.67	4.12	23.61	4.15	25.25	4.77	21.27	2.37	22.97	4.09	21.00	3.46		
		技術向上意欲	25.22	3.07	25.19	4.05	26.11	4.11	23.91	3.80	24.50	4.01	22.09	2.81		
		困難の克服	24.78	3.56	24.25	4.31	25.46	3.83	22.27	2.53	24.18	4.15	21.55	3.64		
		練習意欲	20.33	3.32	20.35	4.53	20.50	4.51	19.00	3.71	18.97	4.22	18.00	4.69		
	精神面に 関与する尺度	冷静な判断	20.44	3.61	21.12	3.99	22.71	4.28	17.36	2.98	20.24	3.89	18.45	2.07		
		精神的強靱さ	22.00	3.24	22.03	3.37	23.32	4.18	19.82	3.83	20.82	3.90	19.73	2.87		
		闘志	26.56	4.28	26.88	4.21	28.68	3.10	23.18	3.63	25.00	3.51	25.00	3.69		
	競技への積極 的な思考に 関する尺度	競技価値観	22.78	5.24	23.45	4.20	24.07	4.49	20.55	3.83	22.62	4.40	20.09	4.72		
		計画性	21.67	2.83	22.32	3.60	23.79	3.86	19.82	2.93	21.03	4.36	19.45	4.08		
		努力への因果帰属	24.33	3.54	25.09	3.63	24.82	3.10	23.55	3.59	25.53	3.39	23.73	2.80		
		知的興味	24.67	4.82	25.41	4.64	26.86	4.54	22.73	3.82	23.85	3.69	22.91	2.91		
	勝利志向	勝利志向性	22.00	5.50	22.25	3.97	23.14	4.86	18.64	4.11	20.12	3.87	21.91	6.27		
コーチとの人 間関係	コーチ受容	23.89	4.76	21.25	4.00	20.18	5.10	21.18	5.00	23.47	3.64	21.55	3.70			
	対コーチ不適応	17.56	4.93	17.18	4.51	17.25	3.97	19.82	4.64	17.12	4.55	18.00	2.65			
マイナ ス要因	競技への不安 尺度	失敗不安	19.22	6.00	18.53	5.29	17.29	4.50	22.09	5.32	20.94	4.70	20.64	4.76		
		緊張性不安	17.67	5.22	17.33	4.13	15.71	3.91	20.64	4.61	18.74	4.46	17.55	3.24		
	生活習慣	不節制	19.78	3.56	18.44	3.51	16.25	3.48	18.82	3.03	16.35	3.37	17.91	4.06		

表5 分散分析の結果（性×出場大会経験）

尺度名		要 因		性		出場大会経験		交互作用	
		F	s. l. 多重比較	F	s. l. 多重比較	F	s. l. 多重比較	F	s. l.
プ ラ ス	競技意欲へ直接的に 関与する尺度	目標への挑戦	6.80	** M>F	0.43	…	2.77	…	
		技術向上意欲	5.21	* M>F	0.00	…	2.16	…	
		困難の克服	3.23	…	0.16	…	2.98	…	
		練習意欲	5.12	** M>F	0.03	…	0.21	…	
要 因	精神面に 関与する 尺度	冷静な判断	8.86	** M>F	2.21	…	2.58	…	
		精神的強靱さ	9.90	** M>F	0.67	…	1.36	…	
		闘志	15.11	** M>F	2.64	…	0.80	…	
マ イ ナ ス 要 因	競技への 積極的な 思考に 関与する 尺度	競技価値観	5.63	* M>F	0.64	…	1.64	…	
		計画性	10.88	** M>F	0.93	…	2.00	…	
		努力への因果帰属	0.00	…	1.50	…	0.72	…	
		知的興味	8.90	** M>F	0.93	…	0.91	…	
要 因	勝利志向	勝利志向性	9.15	** M>F	1.73	…	0.37	…	
		コーチとの 人間関係	4.36	* F>M	1.53	…	2.87	…	
		対コーチ不適応	0.33	…	1.01	…	0.61	…	
		競技への 不安尺度	10.50	** F>M	0.97	…	0.11	…	
要 因	生活習慣	緊張性不安	6.24	** F>M	2.99	…	0.30	…	
		不節制	2.28	…	4.04	OG>IG*	2.64	…	

* p. < .05 ** p. < .01

では過去の出場大会での比較であるため、必ずしも現役の競技レベルを反映していなかったのではないかと考えられる。

以上のように、三重県の国体選手の競技意欲は、全体的に平均的であることが示された。また、女子よりも男子の方が高い競技意欲を示したが、これは一般的な傾向とある程度一致するものであった。そして、競技経験による差が認められ競技意欲のトレーナビリティが示唆された。これらのことは、三重県国体選手の競技意欲がさらに高められる可能性を示すものであり、そのためのトレーニングの導入が必要であろう。

今後の課題

本研究は、三重県のトップアスリートの心理的特性を明らかにするため、TSMI により検討を行った。しかし、この TSMI は、スポーツ選手の競技意欲を測るもので、トップアスリートの心理的特性をすべて把握しているものではない。

Martens⁴⁾ がパーソナリティ研究において指摘しているように、比較的安定していると考えられる内的な側面と、比較的行動の側面に近いと考えられる外的な側面の両側面からのアプローチが必要になる。本研究で使用した TSMI は、外的な側面を測るものであり、今後外的、内的両側面からの検討あるいはそれらの関連性が必要であると思われる。また、TSMI の研究を概観した吉沢¹¹⁾ が指摘しているように、状況を考慮した測定、個人レベルでの追跡調査、あるいは、競技種目ごとの特性など今後検討する必要がある。さらに、競技力向上を考える場合、選手一人一人の心、技、体の3側面からの幅広いデータの収集を試合ごとあるいは年度ごとの継続的な実施及び分析、そしてそれらの総合的なデータに基づいたアドバイスやトレーニングなどを考えていかななくてはならない。今後、この点についても研究を進めていきたいと考えている。

参 考 文 献

- 1) 遠藤俊郎：バレーボール競技者の心理的適性に関する研究 (2)——わが国の競技レベルにおけるトッププレイヤーに関して——、36, 144-152, 山梨大学教育学部研究報告、1985。
- 2) 堀本 宏他：バスケットボール選手の心理的適性——実業団バスケットボール選手の競技レベルと性差からみた TSMI と MPI」に関する考察——、20, 69-75, 中京女子大学紀要、1986。
- 3) 岸 順治、中込四郎：運動選手のバーンアウト症候群に関する概念規定の試み、体育学研究、34-3, 235-243, 1989。
- 4) Martens, R.: *Social Psychology and Physical Activity*, New York, Harper & Row, 1975. (池田勝訳：スポーツ・個人・社会、ベースボールマガジン社、1979。
- 5) 松田岩男他：スポーツ選手の心理的適性に関する研究——第一報、第二報——、昭和55年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、1980。
- 6) 松田岩男他：スポーツ選手の心理的適性に関する研究——第三報——、昭和56年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、1981。
- 7) 松田岩男他：スポーツ選手の心理的適性に関する研究——第四報——、昭和57年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、1982。
- 8) 山本勝昭：オーバートレーニングの指標としての POMS について、臨床スポーツ医学、17-5, 561-565, 1990。
- 9) 吉沢洋二他：ホッケーの女子トッププレイヤーの心理的適性について、6-1, 113-121, 総合保健体育科学、1983。
- 10) 吉沢洋二他：バスケットボール選手の心理的適性——高校バスケットボール選手の TSMI の特徴について——、7-1, 99-110, 総合保健体育科学、1984。
- 11) 吉沢洋二：バスケットボール選手の心理的適性について——大学バスケット選手の TSMI の特徴について——、38, 109-125, 名古屋経済大学・市邨学園短期大学人文科学研究会人文科学論集、1986。